

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	地域福祉課	
施策	1	地域福祉の推進	評価 責任者	工藤 浩統	内線 2520
小施策	1-3	地域福祉を担うひとづくり	評価 シート 作成者	熊谷 修二	内線 2521

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
地域福祉の実践活動では、生活困難を抱えた人々を排除することなく、社会全体で包み込むという視点と、広く福祉に関する意識を持った人材の育成を推進する必要がある。		支援を必要とする人が適切なサービスを受けられるために、また、住み慣れた地域で、誰もが地域の一員として尊重され、自立した生活を送ることができるよう、お互いに支えあうことができる地域福祉を担うひとづくりを推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民, 地域		仕組みと地域環境をつくり、支える人材が養成される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① ボランティア登録者数(個人)	人	↗	当初値 (H25) 11,607 R1目標値 12,000 R6目標値 12,500 	⇒	・将来の地域福祉活動の担い手である高校生等に地域福祉人材育成事業への参加を広く呼びかけ、参加校が増加した。 ・盛岡市社会福祉協議会が実施する高校生ボランティアスクールや一般の方を対象としたボランティア入門講座への参加者が増加した。 ・地域福祉人材育成事業の事業内容が、地域の担い手育成に寄与する内容であると、市内の多くの高校に認識いただいたものと考えられる。 ・全国的な災害の発生とその際のボランティアの活動に触発された方が増加していると考えられる。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・市社会福祉協議会へボランティア登録する個人の人数が増えない。 ・シルバーメイト事業において見守りする側であるメイトの登録者が伸びていない。	⇒	・福祉活動やボランティアに関心を示す個人が、実際に取組を行おうとした場合に、どのように活動したらよいかその方法が分からないため、登録者が伸び悩んでいるものと考えられる。 ・地域における高齢者が増加しており、メイトとして事業を担う方も高齢者となってきたことが考えられる。
指標② ボランティア登録者数(団体)	団体	↗	当初値 (H25) 131 R1目標値 135 R6目標値 140 	⇒	・グループでのボランティア登録の増加に併せて、盛岡市社会福祉協議会等への活動に協力するグループが増加している。 ・個人では、ボランティア活動への参加に躊躇する方もいるが、グループで参加することでボランティアに参加しやすくなっているものと考えられる。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・ボランティア活動を積極的に行なおうとしている団体等への意欲の維持	⇒	・交流・情報交換の場を設けることで参加者の意欲喚起を図り、登録団体数の増加傾向を維持できるものと考えられる。

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★ 高校生や社会人などの参加者が、自ら課題と考える地域課題を発見し、その解決に向けた活動に取り組むことで、地域のよき理解者として福祉活動の担い手を育成する地域福祉人材育成事業を開催する。 ★ ふれあいのまちづくり事業としてシルバーメイト事業への補助を実施したほか、盛岡市社会福祉協議会が取り組むボランティア育成事業への補助を実施する。 ☆1 高校生や社会人の地域福祉活動への参加や興味関心を高め、将来、活動に取り組む方を養成するため、引き続き地域福祉人材育成事業に取り組む。 ☆2 引き続き、ふれあいのまちづくり事業を実施し、シルバーメイト事業への補助や高校生や地域住民のボランティア育成に取り組む。	
★ 高校生や社会人などの参加者が、自ら課題と考える地域課題を発見し、その解決に向けた活動に取り組むことで、地域のよき理解者として福祉活動の担い手を育成する地域福祉人材育成事業を開催する。 ★ ふれあいのまちづくり事業として盛岡市社会福祉協議会が取り組むボランティア育成事業への補助を実施する。 ☆1 高校生や社会人の地域福祉活動への参加や興味関心を高め、将来、活動に取り組む方を養成するため、引き続き地域福祉人材育成事業に取り組む。 ☆2 引き続き、ふれあいのまちづくり事業を実施し、ボランティア講座参加者が協力して活動できる受け皿となるグループづくりを支援する。	